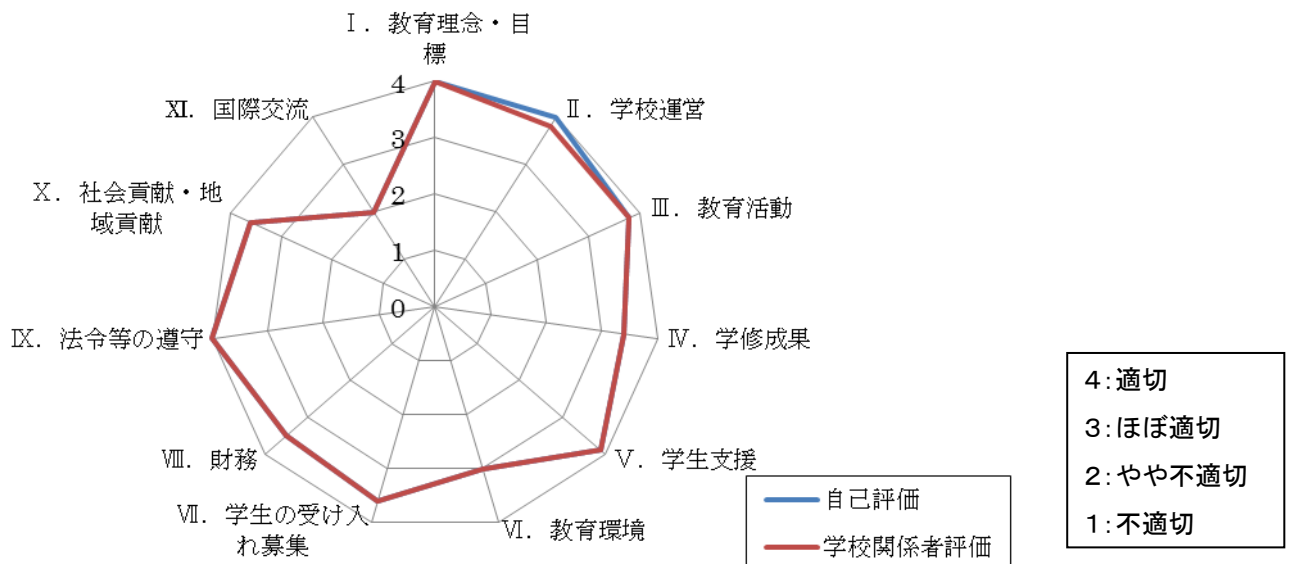


# 平成 29 年度 看護師養成所評価結果

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校

評価カテゴリー	評価内容の概要
I. 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像が定められているか、学校における職業教育の特色、将来構想が明確か、また、学生・保護者などへ周知されているかなどについての評価（小項目 5 項目）
II. 学校運営	目的、事業計画に沿った運営方針の策定、運営組織や意思決定機能が規則等において明確か、また、人事給与に関する制度の整備、コンプライアンス体制、情報公開などが適正におこなわれているかなどについての評価（小項目 8 項目）
III. 教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等の策定、職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発、カリキュラム評価体制、指導体制、教員の確保などについての評価（小項目 16 項目）
IV. 学修成果	就職率の向上、資格取得率の向上、退学率の低減、卒業生・在校生の社会的な活躍および評価の把握などについての評価（小項目 5 項目）
V. 学生支援	進路・就職に関する支援体制、学生相談に関する体制、経済的支援体制、健康管理、課外活動に対する支援、生活環境の支援、保護者との連携などについての評価（小項目 10 項目）
VI. 教育環境	施設・設備についての整備、学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等についての教育体制の整備、防災に対する整備についての評価（小項目 3 項目）
VII. 学生の受け入れ募集	学生募集活動の適切な実施および成果について、学納金についての評価（小項目 3 項目）
VIII. 財務	中・長期的な財政基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開の体制整備についての評価（小項目 4 項目）
IX. 法令等の遵守	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営、個人情報保護に対する対策、自己評価の実施と情報公開などについての評価（小項目 5 項目）
X. 社会貢献・地域貢献	学校の教育自然や施設を活用した社会貢献・地域貢献、学生のボランティア活動の奨励・支持、地域に対する公開講座、教育訓練の受託等についての評価（小項目 3 項目）
XI. 国際交流	留学生の受け入れ・派遣、学習成果が国内外で評価される取り組みについての評価。（但し、必要性に応じて）（小項目 4 項目）



平成29年度 養成所評価

【総評】実習においては、臨床指導教員を配置する等学習支援の環境は整っている。年度の目標に対し、どのような学生を育てたいか、そのために教員・指導者に必要な教育力は何かを考えた方策が立てられ、実施されている。目標達成に向けて、社会人基礎力の強化、主体的行動がとれる、看護実践力の強化を目指し、教科外活動に看護観・倫理観を育成する取り組みがなされている。一方で教科外活動の時間が多くなることで学生が息づまりを感じると思われる。講義・演習・実習の授業時間の中でこれらの育成が図れるような工夫が望まれる。

	自己評価	学校関係者評価
I. 教育理念・目標	4.0 国立病院機構の理念のもと、看護師に必要な知識・技術・態度を教授し、国立病院機構及び社会に貢献しうる有能な看護実践者を育成することを掲げ、目的・目標に向けて邁進している。	4.0 教育理念は国立病院機構の理念が反映されており、育成したい職業人像も教育目標に明示され、看護実践者を育てる教育内容となっている。
II. 学校運営	4.0 目的・事業計画に沿った運営方針の策定、人事・給与に関する制度等について国立病院機構及び母体病院当校の規程が整備されるなど適切に運営されている。	3.8 目的・事業計画に沿った運営方針が策定されている。また、人事・給与に関する制度等について国立病院機構機構及び当校の規程が整備され適切に運営されている業務の効率化については、学校業務マニュアルを基に行動することで業務内容の把握、確認ができ、役割りや責任の明確化が図れ業務の効率化に繋がっていると思われる。
III. 教育活動	3.8 教育課程編成委員会、学校評価委員会、実習施設などと連携しカリキュラムの見直しを行っている。今年度は担当領域の講義・演習・実習の繋がりを意識した実習要項の見直しを行っている。また、学生の思考を深める実習指導や授業の改善に取り組んでいる。教員の研修参加後は、伝達講習を行い学びの共有を図っている。研究助成金システムなど教員の研修・研究に対する体制が整っている。	3.8 前年度の課題を明確にし、カリキュラムの見直しを行っている。学生の思考を深めるための学習会を臨床の指導者と持ち、指導方法の検討を行い、効果的な実習指導に役立てている。
IV. 学修成果	3.4 H29年度の就職率は93%、進学率は7%で、うち機構病院への就職率は、96%、進学率は7%であった。国家試験合格率は94.3%であった。進路指導、学生相談などの支援、健康管理、奨学金および教育給付金などの経済支援を積極的におこなっている。卒業生対象に里帰り企画を実施し、33名の出席があった。	3.4 県内就職率、国立病院機構への就職率は高く、努力されている。里帰り企画を実施しているが、卒業生・在校生の社会的な活躍・評価をどのように把握しているのか明確にするるとよい。卒業生の動向調査が実施されるとよい。
V. 学生支援	3.9 進路指導、学生相談などの支援、健康管理、奨学金及び教育給付金などの経済的支援を積極的に行っている。	3.9 県内国立病院機構5施設と連携を取り合いながら奨学金・就職説明会を実施している。社会人経験者の入学生には専門教育訓練給付金制度を活用し支援している。
VI. 教育環境	3.0 施設設備の整備、教材教具および図書などについては計画的に購入し、学習環境を整えている。また、年1回の避難訓練を実施し、防災への意識付けを行っているが、災害時に対応できるような準備、体制づくりの強化が必要である。	3.0 施設整備、教材等購入計画が立てられ計画的に購入されている。図書については一部古くなってきているものもあり、専門書の整備が望まれる。評価が3.0ではあるが、臨地実習においては、臨床指導教員の配置や指導者研修を受講した指導者が学生指導にあたり実習指導の充実が図れている。
VII. 学生の受け入れ募集	3.6 本年度より、一般入学試験を2回実施し、前年度より24名応募者が増加した。神奈川県下に学校が多数設置され、競争が激化しているため、学生確保および魅力ある学校づくりの対策が必要である。	3.6 学校説明会の実施や入学試験実施回数を増やす等、学生確保のために最善の努力をしている。
VIII. 財務	3.5 神奈川県からの補助金を獲得できた。母体病院の経営状況が学校の財政に影響するため、安定的な財源確保に至っていない。	3.5 自校の評価通り
IX. 法令等の遵守	4.0 指定規則を遵守し運営している。また、学校の自己評価を行い、ホームページ上で公開している。個人情報保護について学生に指導継続している。	4.0 指定規則は遵守されている。個人情報保護規定は適時見直しが行われており、学生への指導も適時行われている。
X. 社会貢献・地域貢献	3.6 卒業生や病院職員、県内の機構職員などの図書室の利用は少なく、今後検討の必要がある。地域に対する公開講座など計画的・積極的に実施している。中学校や高校に訪問し、職業教育を行っている。また、教員インターンシップや教育実習を積極的に受け入れている。	3.6 高校生への進路相談会、学校見学会の実施や中学校、高校を対象に職業講話を実施しており、積極的に活動している。
XI. 国際交流	2.0 留学生を受け入れるための教員数が整っておらず、現状として留学生の受け入れは困難である。現在のところ希望者はいない。	2.0 自校の評価通り

学校関係者評価委員会 出席者 (第1回:平成30年7月19日 看護学校研究室にて開催)

委員長	横浜医療センター副院長	鈴木 宏昌	事務局	学校長	平原 史樹
委員	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部教授	吉村 恵美子		副学校長	内山 紀子
	(株)モリモリ みんなの訪問看護 ステーション 代表取締役	森元 陽子		事務長	割田 亥知朗
	横浜市大正中学校 校長	石渡 元		教育主事	渡邊 真弓
	箱根病院長	小森 哲夫		教育主事	押尾 知子
	相模原病院看護部長	大草 由美子			
	横浜医療センター看護部長	亀尾 慶子			